

沖縄キリスト教短期大学FD委員会  
(編・著)

2012年度 前期

# 学生による授業評価報告書

巻頭言

はじめに

第1章 全体的評価

第2章 科目・クラス別評価

総合教育系科目

英語科科目

保育科科目

第3章 自由記述による授業評価

沖縄キリスト教短期大学

## 沖縄キリスト教短期大学

### 2012 年度 前期授業評価

沖縄キリスト教短期大学

学長 中原 俊明

2012 年度前期の授業評価が予定通り実施され、その報告書がまとめられたが、その任務を担って頂いた FD 委員会メンバーの御労苦を多としたい。授業評価の対象領域は、基本的には、教員に関する部分と学生に関する部分から成り立っているが、その他に大学全体に関わる評価テーマ（例えば、外部の評価機構による場合のトップ項目とされる「建学の精神」の血肉化といった共通の課題など）も絶えず念頭に置く必要がある。

授業評価は、学院との基本的な入学契約をベースにして個別具体的にはシラバスの履行状況の確認やチェックという意味をもつように思われる。

教員側への学生の評価をみると、かなりポジティブな数値になっている印象である。例えば、授業を通して「発展的な学習や新たな知識に興味を湧いた」という評価が 84%、「授業の進め方にメリハリがあった」とする者 86%、「教員として相応しくない発言や態度なし」としたものが 88%、「学んだ達成感を得た者」が 85%、などである。

他方、学生自身の学習態度に関しては、例えば、授業の予習復習やフィードバックの実績は 66.5%であり、また授業を通して地域や国際社会への関心を促されたとする者が 75%となっている。恐らくこれらの数値に改善の余地があるはずで、それが今後の課題ではなかろうか。また 2011 年度前期の評価報告書の巻頭言で神山学長によって指摘された「学生には、シラバスの担う役割を十分認識してもらい必要がある」との宿題は、どの程度達成されたのか、気になるところではあるが、引き続き留意しつつ、改善に努めていきたいと思う。

小中高までの、限りなく国定に近い検定教科書や学習指導要領等で受け身的に教育されてきた学生たちにとって必要なことは、さらに上から教え込むのではなく、彼らの持つ可能性を引き出す教育への転換ではなかろうか。確かドイツ語で「教育」を表す Erziehung は、引き出す erziehen という動詞に由来すると聞いたことを想起する。自発的、批判的な姿勢に立つ学びを促すことを本学院全体の共通の課題にしたい。

沖縄キリスト教短期大学FD委員会委員（2012年度）

中原俊明（委員長・学長）  
大山伸子（委員・短期大学部長）  
柳田正豪（委員・英語科長）  
喜舎場勤子（委員・保育科長）  
張本文昭（委員・総合教育系主任）  
金城繁正（委員・企画推進課長代行）

執筆者

作田真由子（英語科）  
吉村壮明（保育科）  
張本文昭（総合教育系）

以上

はじめに

## はじめに

本学では 2011～2012 年度にかけて、各学科・系会議、FD委員会および教授会において、従来の授業評価アンケートの意義や方法、質問項目内容について再考した。その結果、「自立した学習者による自己評価であること」に主眼を捉え直し、特に質問項目については「Ⅰ 学習態度の自己評価」、「Ⅱ 学習環境の評価」および「Ⅲ 改善のための提言」の 3 点を観点としてアンケート内容を再編成した。2012 年度前期の授業評価アンケートは、新しくなった授業評価アンケートの初回の実施となっている。

2012 年度前期の授業評価アンケートは、同年 7 月（当該学期末に近い時期）に実施し、80 科目、157 クラスについて分析を行った。分析に投与された評価表は、3,883 件であった。評価は 5 段階法を採用しており、1 点を最低、5 点を最高の評価としている（質問項目 9 は 2 段階法）。

## 第 1 章

# 全体の評価

本章では、「Ⅰ 学習態度の自己評価」および「Ⅱ 学習環境の評価」についての全体的な傾向を示す。

## 1 各設問に対する結果

以下に、「Ⅰ 学習態度の自己評価」に関する結果に対して若干の解説、解釈を述べる。各設問に対する数量的な結果については、後に度数分布表および棒グラフとして示す。

### Q1 「初回のオリエンテーションを聞き、授業の概要や目的、成績評価の方法などについて正しく理解していた」

評価の平均は 4.41 であり、「5」評価が 58.6%、「4」評価を加えると 84.8%であったことから、授業目的や概要の説明、授業ガイダンス等は概ね理解されていたものと考えられる。しかしながら「3」「2」「1」評価を合計すると 15.0%ある上、標準偏差が.81 あることから、理解していない者がいたことも推察できる。

### Q2 「私語や携帯電話の使用など、授業を乱す行為をしなかった」

評価の平均は 4.45 であり、「5」評価が 60.0%、「4」評価を加えると 87.0%であったことから、概ね受講マナーは守られていたものと思われる。

### Q3 「この授業をきっかけに、発展的な学習や新しい知識に興味を沸いた」

評価の平均は 4.36 であり、「5」評価が 56.0%、「4」評価を加えると 83.8%であったことから、比較的多くの学生にとって、授業が新たな学びへの動機付けとなっていたことと考えられる。しかしながら「3」「2」「1」評価を合計すると 15.0%ある上、標準偏差が.85 あることから、授業内容にのみとどまっている学生もいる。

### Q4 「この授業に、積極的に参加した」

評価の平均は 4.37 であり、「5」と「4」の評価を合わせると 83.8%であり、おおむね良好な結果であると捉えて良いと思われる。一方で、「3」「2」「1」を合計すると 15.9%に達し、16%近くの学生が積極的には授業に参加していないと感じている。

### Q5 「授業時間以外にも、授業の準備や課題を行うなど、計画的に学習に取り組んだ」

評価の平均は 4.16 であり、「5」と「4」の評価を合わせると 76.0%であったことから、これまでの設問 1~4 よりは低い評価となっている。本設問に対する結果は後述の Q7 とも共通する傾向が認められた。

### Q6 「この授業を通して、地域および国際社会の事情に、より関心を持つようになった」

評価の平均は 4.15 であり、「5」と「4」の評価を合わせると 74.8%であった。先の Q5 と同様に設問 1~4 よりは低い評価となっている。この点に関しては、授業内容や授業特性によっては、地域や国際社会の諸問題を扱いにくいケースもあり、第 2 章の

科目毎の評価でより詳しく参照されたい。

**Q7 「この授業の予習・復習または準備・フィードバックを自主的に行った」**

評価の平均は 3.96 であり、「5」評価が 38.4%、「4」評価を加えると 66.5%であった。この数値は五段階評定を用いた設問に対する回答の中では最低である。過去に用いていた授業評価アンケートにおいても「予習や復習」に関する評価は最低であったが、今回は「準備やフィードバック」を質問文に加えたため、学生の自主的な学習についてこれまでよりも拾い上げることが出来たのではないかと考えられた。

**Q8 「この授業での遅刻はなかった」**

評価の平均は 4.46 であり、「5」と「4」の評価を合わせると 83.7%であり、おおむね良好な結果であると捉えて良いと思われる。

**Q9 「この授業での欠席回数を把握している」**

評価の平均は 0.93 であり、「はい」評価が 67.7%、「いいえ」評価は 21.2%であった。おおむね自己管理ができているものと思われる。

以上が「Ⅰ 学習態度の自己評価」に関する項目である。続いて「Ⅱ 学習環境の評価」に関して結果を述べる。

**Q10 「授業中、分からないことや理解できなかったことを質問する機会や工夫があった」**

評価の平均は 4.35 であり、「5」評価が 57.2%、「4」評価は 25.0%であった。「5」と「4」の評価を合わせると 82.2%であり、概ねそのような機会や工夫は為されていたと捉えて良いであろう。一方で、「3」「2」「1」を合計すると 17.4%に達し、標準偏差も.89あることから、一定数の学生にとってはそれらが不足していると感じており、教員はさらなる努力が求められるだろう。

**Q11 「授業の開始・終了時間は適切であった」**

評価の平均は 4.59 であり、「5」評価が 71.2%、「4」評価は 19.3%であった。「5」と「4」の評価を合わせると 90.5%であり、時間はほぼ適切に守られていたものと推察できる。

**Q12 「授業の進め方にメリハリ（声の大小・説明内容等）があった」**

評価の平均は 4.48 であり「5」評価が 66.3%、「4」の評価は 19.8%であった。概ね良好な結果と捉えて良いだろう。

**Q13 「理解や興味を引き出すよう工夫されていた」**

評価の平均は 4.38 であり「5」評価が 61.2%、「4」の評価は 21.3%であったが、「3」「2」「1」評価を合わせると 17.1%あり、標準偏差も.91あることから学生間、授業間



の差があることも推察できる。

**Q14 「教員としての相応しくない発言や態度はなかった」**

評価の平均は 4.53 であり「5」評価が 69.5%、「4」の評価は 18.0%、それぞれの評価を合わせると 87.5%であった。Q11、Q12 と共通する傾向であった。

**Q15 「受講するための十分な学習環境、受講生のマナーが保たれていた」**

評価の平均は 4.43 であり「5」評価が 61.7%、「4」の評価は 22.7%であった。しかしながら「3」「2」「1」評価を合わせると 15.2%あり、標準偏差も.84 あることから学生間、授業間の差があることも推察でき、Q13 と共通する傾向にあった。

**Q16 「教科書や配付資料、その他教材、黒板やパソコン等が有効に使われていた」**

評価の平均は 4.48 であり「5」評価が 65.5%、「4」の評価は 20.3%で、概ね肯定的な評価が得られていると考えられる。

**Q17 「授業の進度は、適切であった」**

評価の平均は 4.49 であり「5」評価が 66.4%、「4」の評価は 20.2%、合計で 86.6% あったことから、比較的多くの学生にとって適切な授業進行・展開が図られていたものと推察できる。

**Q18 「学んだという達成感が得られた」**

評価の平均は 4.42 であり「5」評価が 63.4%、「4」の評価は 21.3%であった。一方、「3」「2」「1」評価を合わせると 14.9%あり、標準偏差も.91 あることから Q13、Q15 と共通し、学生間、授業間の差があることも推察できた。教員は学生の期待に応えられるような、日々の努力が求められている。

**1. 授業の概要・目的、成績評価方法等の正しい理解**

		度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効	1	21	.5	.5	.5
	2	50	1.3	1.3	1.8
	3	511	13.2	13.2	15.0
	4	1016	26.2	26.2	41.2
	5	2275	58.6	58.7	99.9
	合計	3873	99.7	100.0	
欠損値	システム欠損値	10	.3		
合計		3883	100.0		

**2. 授業を乱す行為をしない**

		度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効	1	13	.3	.3	.3
	2	57	1.5	1.5	1.8
	3	423	10.9	10.9	12.7
	4	1050	27.0	27.1	39.8
	5	2329	60.0	60.1	100.0
	合計	3872	99.7	100.0	
欠損値	システム欠損値	11	.3		
合計		3883	100.0		

3. 発展的な学習や新しい知識への興味

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	28	.7	.7	.7
2	91	2.3	2.4	3.1
3	499	12.9	12.9	16.0
4	1080	27.8	27.9	43.9
5	2173	56.0	56.1	100.0
合計	3871	99.7	100.0	
欠損値 システム欠損値	12	.3		
合計	3883	100.0		

4. 積極的な参加

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	12	.3	.3	.3
2	76	2.0	2.0	2.3
3	529	13.6	13.7	16.0
4	1104	28.4	28.5	44.5
5	2153	55.4	55.6	100.1
合計	3874	99.8	100.0	
欠損値 システム欠損値	9	.2		
合計	3883	100.0		

5. 計画的な学習への取り組み

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	27	.7	.7	.7
2	169	4.4	4.4	5.1
3	725	18.7	18.7	23.8
4	1171	30.2	30.2	54.0
5	1779	45.8	45.9	99.9
合計	3871	99.7	99.9	
欠損値 システム欠損値	12	.3		
合計	3883	100.0		

6. 地域及び国際社会の事情に、より関心を持つ

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	48	1.2	1.2	1.2
2	163	4.2	4.2	5.4
3	755	19.4	19.5	24.9
4	1106	28.5	28.5	53.4
5	1799	46.3	46.4	99.8
合計	3871	99.7	99.9	
欠損値 システム欠損値	12	.3		
合計	3883	100.0		

7. 自主的な予習・復習または準備・フィードバック

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	55	1.4	1.4	1.4
2	236	6.1	6.1	7.5
3	1001	25.8	25.8	33.3
4	1092	28.1	28.2	61.5
5	1490	38.4	38.5	100.0
合計	3874	99.8	100.0	
欠損値 システム欠損値	9	.2		
合計	3883	100.0		

8. 遅刻はない

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	84	2.2	2.2	2.2
2	159	4.1	4.1	6.3
3	378	9.7	9.8	16.1
4	535	13.8	13.8	29.9
5	2715	69.9	70.1	100.0
合計	3871	99.7	99.9	
欠損値 システム欠損値	12	.3		
合計	3883	100.0		

9. 欠席回数 of 把握

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	2630	67.7	67.9	67.9
2	824	21.2	21.3	89.2
合計	3454	89.0	89.2	
欠損値 システム欠損値	429	11.0		
合計	3883	100.0		

10. 授業中の質問する機会や工夫

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	41	1.1	1.1	1.1
2	110	2.8	2.8	3.9
3	524	13.5	13.5	17.4
4	971	25.0	25.1	42.5
5	2220	57.2	57.3	99.8
合計	3866	99.6	99.8	
欠損値 システム欠損値	17	.4		
合計	3883	100.0		

## 11. 適切な授業の開始・終了時間

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	24	.6	.6	.6
2	58	1.5	1.5	2.1
3	273	7.0	7.0	9.1
4	751	19.3	19.4	28.5
5	2763	71.2	71.3	99.8
合計	3869	99.6	99.9	
欠損値 システム欠損値	14	.4		
合計	3883	100.0		

## 12. メリハリのある授業の進め方

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	40	1.0	1.0	1.0
2	107	2.8	2.8	3.8
3	381	9.8	9.8	13.6
4	769	19.8	19.9	33.5
5	2573	66.3	66.4	99.9
合計	3870	99.7	99.9	
欠損値 システム欠損値	13	.3		
合計	3883	100.0		

## 13. 理解や興味を引き出す工夫

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	61	1.6	1.6	1.6
2	127	3.3	3.3	4.9
3	472	12.2	12.2	17.1
4	828	21.3	21.4	38.5
5	2378	61.2	61.4	99.9
合計	3866	99.6	99.8	
欠損値 システム欠損値	17	.4		
合計	3883	100.0		

## 14. 教員としての相応しい発言や態度

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	39	1.0	1.0	1.0
2	96	2.5	2.5	3.5
3	336	8.7	8.7	12.2
4	700	18.0	18.1	30.3
5	2697	69.5	69.6	99.9
合計	3868	99.6	99.8	
欠損値 システム欠損値	15	.4		
合計	3883	100.0		

## 15. 学習環境、受講生のマナーの維持

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	22	.6	.6	.6
2	94	2.4	2.4	3.0
3	472	12.2	12.2	15.2
4	883	22.7	22.8	38.0
5	2397	61.7	61.9	99.9
合計	3868	99.6	99.8	
欠損値 システム欠損値	15	.4		
合計	3883	100.0		

## 16. 教科書や黒板、パソコン等の有効利用

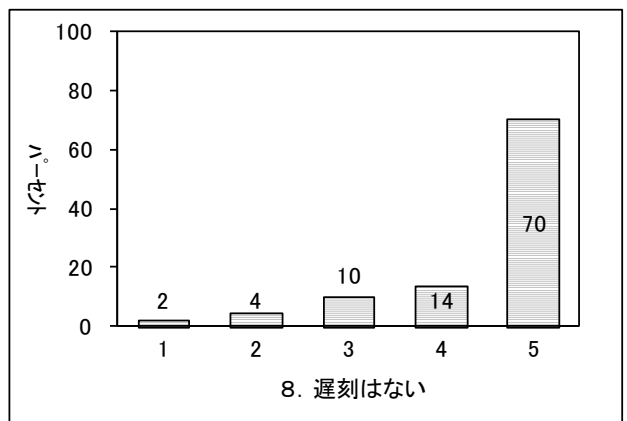
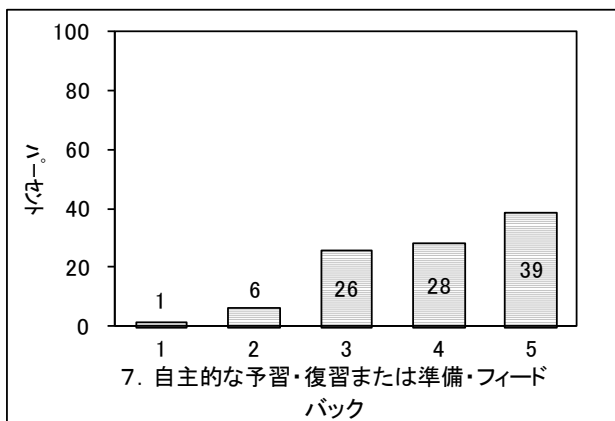
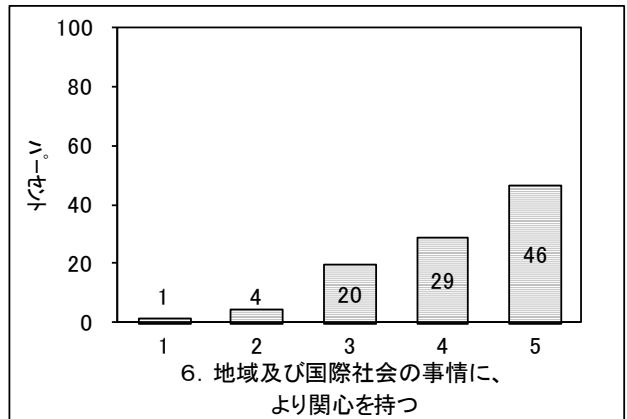
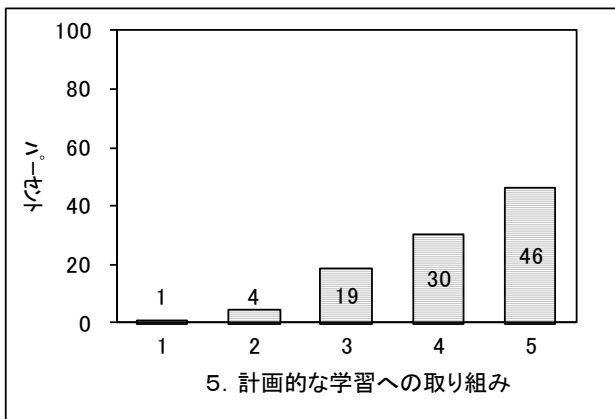
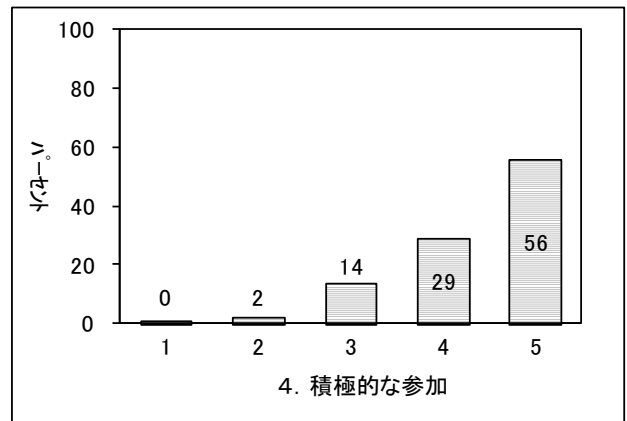
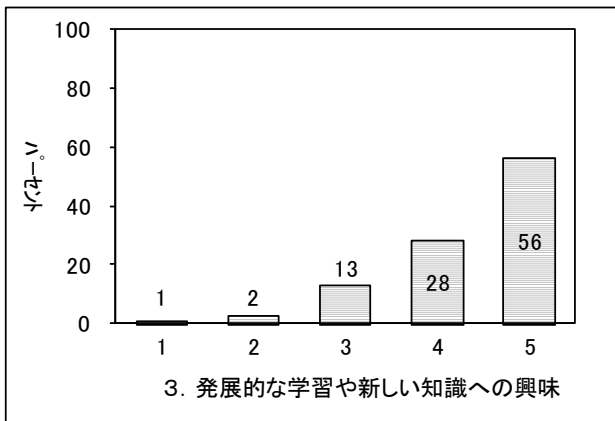
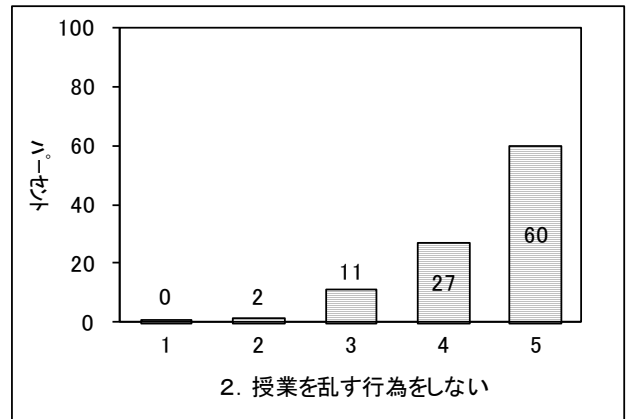
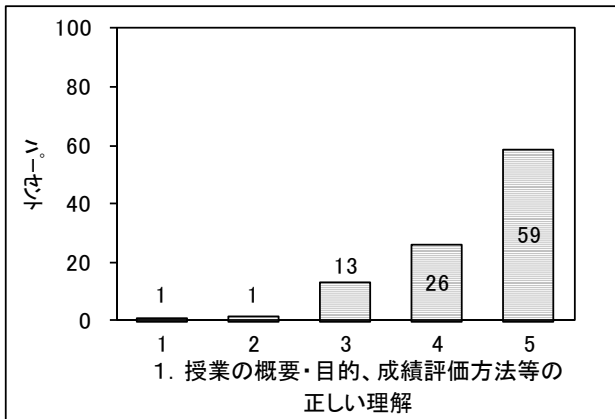
	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	30	.8	.8	.8
2	84	2.2	2.2	3.0
3	427	11.0	11.0	14.0
4	788	20.3	20.3	34.3
5	2542	65.5	65.6	99.9
合計	3871	99.7	99.9	
欠損値 システム欠損値	12	.3		
合計	3883	100.0		

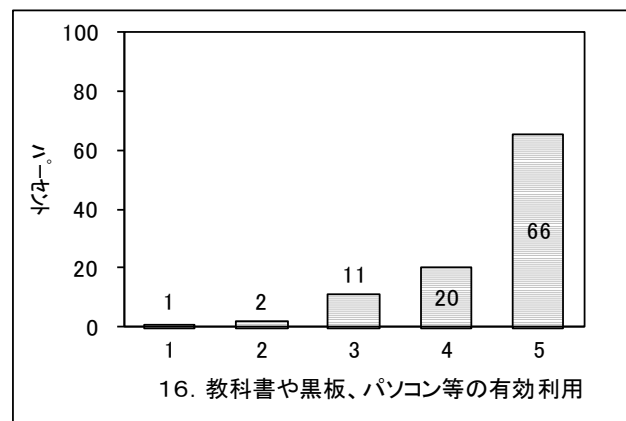
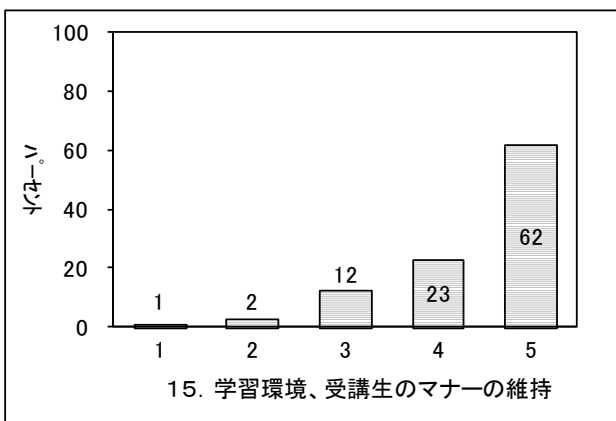
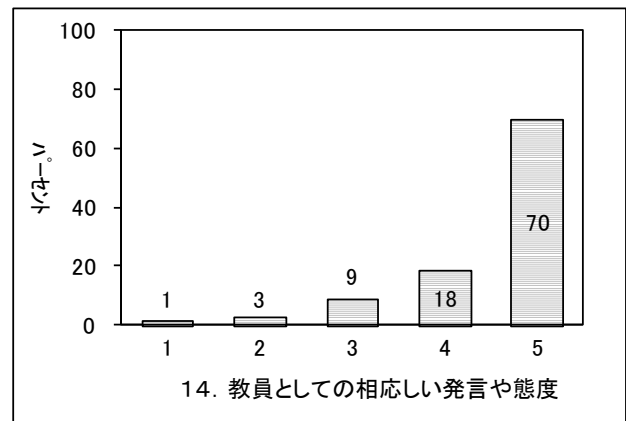
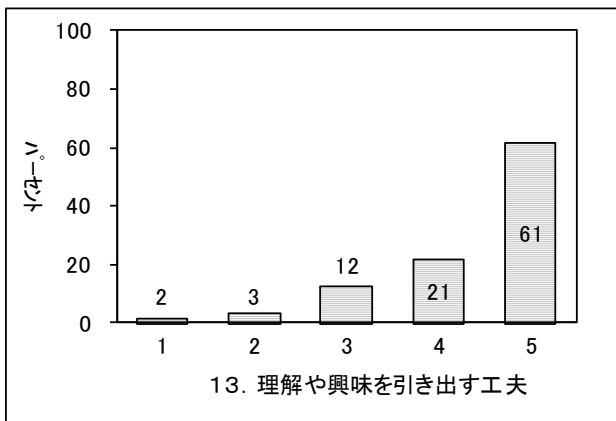
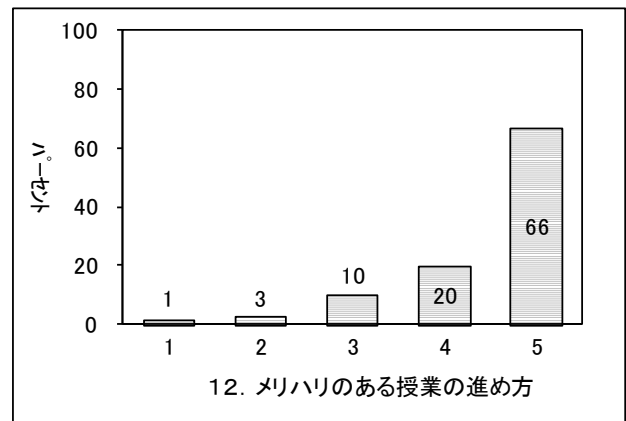
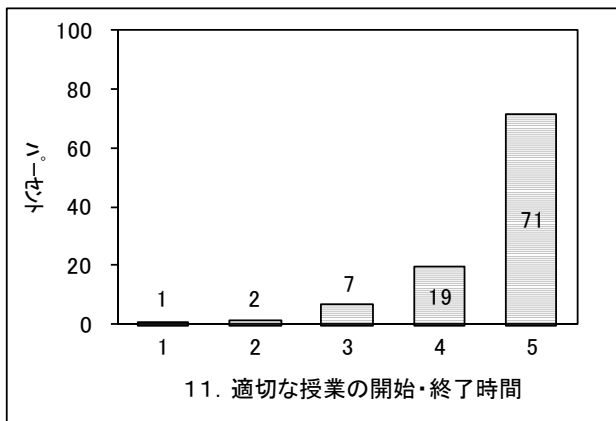
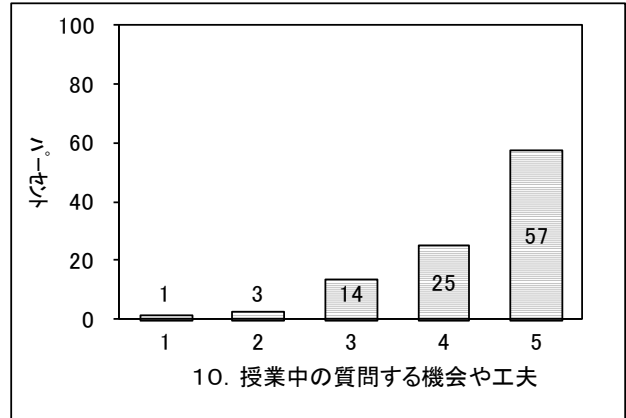
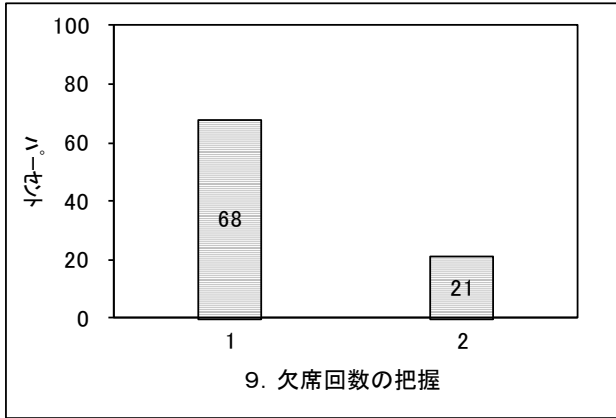
## 17. 適切な授業の進度

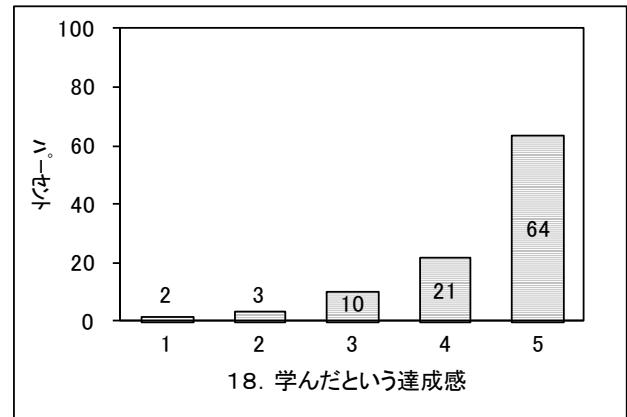
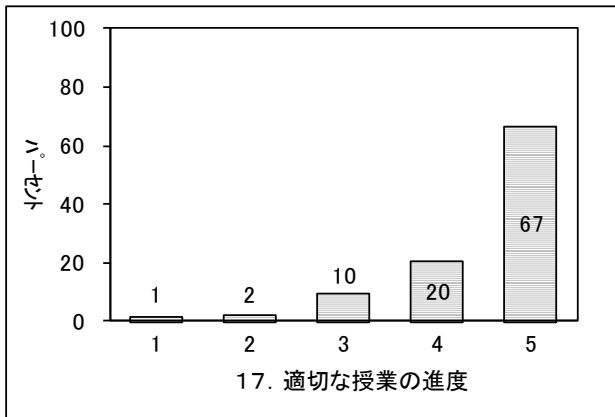
	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	49	1.3	1.3	1.3
2	87	2.2	2.2	3.5
3	373	9.6	9.6	13.1
4	783	20.2	20.2	33.3
5	2577	66.4	66.5	99.8
合計	3869	99.6	99.9	
欠損値 システム欠損値	14	.4		
合計	3883	100.0		

## 18. 学んだという達成感

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	61	1.6	1.6	1.6
2	127	3.3	3.3	4.9
3	390	10.0	10.1	15.0
4	828	21.3	21.4	36.4
5	2461	63.4	63.5	99.9
合計	3867	99.6	99.8	
欠損値 システム欠損値	16	.4		
合計	3883	100.0		







## 2 全体の評定結果

五段階評価に対する質問 17 項目中、16 項目で平均値が 4.15 を超え、学生は概ね自らの学習態度、および大学が提供する学習環境に対して肯定的に評価していると捉えて良いだろう。平均値が 4.00 に満たない項目は、Q7「この授業の予習・復習または準備・フィードバックを自主的に行った」であるが、平均 3.96 あることから、他と比較して著しく低いわけではない。

回答のばらつきを示す標準偏差の結果については、いくつかの質問において個人間また授業間で差があるものと思われた。授業間の差については第 2 章を参照されたい。

記述統計量<sup>a</sup>

		度数	5	4	3	2	1	平均値	標準偏差
I 学習態度の自己評価	1. 授業の概要・目的、成績評価方法等の正しい理解	3873	2275	1016	511	50	21	4.41	.806
	2. 授業を乱す行為をしない	3872	2329	1050	423	57	13	4.45	.771
	3. 発展的な学習や新しい知識への興味	3871	2173	1080	499	91	28	4.36	.847
	4. 積極的な参加	3874	2153	1104	529	76	12	4.37	.813
	5. 計画的な学習への取り組み	3871	1779	1171	725	169	27	4.16	.926
	6. 地域及び国際社会の事情に、より関心を持つ	3871	1799	1106	755	163	48	4.15	.958
	7. 自主的な予習・復習または準備・フィードバック	3874	1490	1092	1001	236	55	3.96	1.007
	8. 遅刻はない	3871	2715	535	378	159	84	4.46	.975
	9. 欠席回数の把握	3454	-	-	-	824	2630	.93	.426
II 学習環境の評価	10. 授業中の質問する機会や工夫	3866	2220	971	524	110	41	4.35	.893
	11. 適切な授業の開始・終了時間	3869	2763	751	273	58	24	4.59	.739
	12. メリハリのある授業の進め方	3870	2573	769	381	107	40	4.48	.858
	13. 理解や興味を引き出す工夫	3866	2378	828	472	127	61	4.38	.931
	14. 教員としての相応しい発言や態度	3868	2697	700	336	96	39	4.53	.832
	15. 学習環境、受講生のマナーの維持	3868	2397	883	472	94	22	4.43	.839
	16. 教科書や黒板、パソコン等の有効利用	3871	2542	788	427	84	30	4.48	.833
	17. 適切な授業の進度	3869	2577	783	373	87	49	4.49	.854
	18. 学んだという達成感	3867	2461	828	390	127	61	4.42	.912

※問9は、1=「はい」の回答数、2=「いいえ」の回答数、平均値=欠席回数の平均値を示す。

### 3 学科ごとの評定結果

#### 3.1 総合教育系の評定結果

全体的な傾向としては、全学科の平均と共通すると捉えることができるが、標準偏差の値は全学科平均よりも高い項目が多く、学生間、科目間の差があると推察できる。

記述統計量<sup>a</sup>

		度数	5	4	3	2	1	平均値	標準偏差
I 学習態度の自己評価	1. 授業の概要・目的、成績評価方法等の正しい理解	844	499	211	117	14	3	4.41	.814
	2. 授業を乱す行為をしない	842	507	227	85	15	8	4.44	.818
	3. 発展的な学習や新しい知識への興味	844	454	242	112	25	11	4.31	.902
	4. 積極的な参加	843	466	237	113	24	3	4.35	.843
	5. 計画的な学習への取り組み	843	386	229	170	52	6	4.11	.979
	6. 地域及び国際社会の事情に、より関心を持つ	844	404	231	160	39	10	4.16	.967
	7. 自主的な予習・復習または準備・フィードバック	844	311	225	231	65	12	3.90	1.034
	8. 遅刻はない	844	605	110	69	35	25	4.46	1.009
	9. 欠席回数の把握	777	-	-	-	182	595	.85	.424
II 学習環境の評価	10. 授業中の質問する機会や工夫	842	460	194	136	38	14	4.24	.990
	11. 適切な授業の開始・終了時間	844	636	138	56	10	4	4.65	.699
	12. メリハリのある授業の進め方	844	558	174	79	25	8	4.48	.854
	13. 理解や興味を引き出す工夫	843	519	169	113	28	14	4.37	.948
	14. 教員としての相応しい発言や態度	842	582	149	71	26	14	4.50	.897
	15. 学習環境、受講生のマナーの維持	844	514	192	108	28	2	4.41	.852
	16. 教科書や黒板、パソコン等の有効利用	844	592	158	74	18	2	4.56	.760
	17. 適切な授業の進度	843	574	161	79	21	8	4.51	.838
	18. 学んだという達成感	844	536	186	83	30	9	4.43	.886

※問9は、1=「はい」の回答数、2=「いいえ」の回答数、平均値=欠席回数の平均値を示す。

### 3.2 英語科の評定結果

学生要因である Q1～Q9 までは、「自主的な予習・復習または準備・フィードバック」(3.86)を除いてほぼ 4.0 を超えているので、学生はますます熱心に勉強していると考えられる。教員要因である Q10～Q18 を平均すると 4.37 であり、概して良い授業を提供していると評価できる。

記述統計量<sup>a</sup>

	度数	5	4	3	2	1	平均値	標準偏差	
I 学習態度の自己評価	1. 授業の概要・目的、成績評価方法等の正しい理解	1044	573	283	166	14	8	4.34	.846
	2. 授業を乱す行為をしない	1045	526	319	176	21	3	4.29	.835
	3. 発展的な学習や新しい知識への興味	1044	526	297	179	34	8	4.24	.903
	4. 積極的な参加	1046	502	314	198	27	5	4.22	.875
	5. 計画的な学習への取り組み	1044	420	320	234	62	8	4.04	.966
	6. 地域及び国際社会の事情に、より関心を持つ	1045	457	311	213	52	12	4.10	.967
	7. 自主的な予習・復習または準備・フィードバック	1046	376	273	293	85	19	3.86	1.054
	8. 遅刻はない	1042	554	190	182	79	37	4.10	1.149
	9. 欠席回数の把握	935	-	-	-	336	599	2.15	.480
II 学習環境の評価	10. 授業中の質問する機会や工夫	1041	535	274	181	37	14	4.23	.948
	11. 適切な授業の開始・終了時間	1042	724	202	88	20	8	4.55	.790
	12. メリハリのある授業の進め方	1043	672	209	119	28	15	4.43	.899
	13. 理解や興味を引き出す工夫	1040	595	245	137	42	21	4.30	.979
	14. 教員としての相応しい発言や態度	1043	677	200	120	30	16	4.43	.913
	15. 学習環境、受講生のマナーの維持	1043	584	254	164	34	7	4.32	.899
	16. 教科書や黒板、パソコン等の有効利用	1044	660	204	139	27	14	4.41	.908
	17. 適切な授業の進度	1044	651	220	120	30	23	4.39	.951
	18. 学んだという達成感	1042	588	244	134	49	27	4.26	1.023

※問9は、1=「はい」の回答数、2=「いいえ」の回答数、平均値=欠席回数の平均値を示す。



### 3.3 保育科の評定結果

前回同様、教員要因の平均値は高く、標準偏差も小さい。それは個々の教員が保育士・幼稚園教員養成に関する熱意をもって、教育に携わっていることの証左であろうと思われる。具体的に短期大学の二年間で何をすべきかという教育目標がはっきりしている事が背景にあるためであろう。ただし「シラバス参照」や「予習復習」の値が低いのは、学生が授業で出された課題をこなすのに手一杯となっている状況が垣間見え、それが自主的な学習への余裕のなさを反映しているようにもうかがえる。この課題は、学科特有の授業課題の多さに起因するものと思われるが、今後、教員間で課題提出に関する意見交換をし、学生の課題状況を把握する事で、今以上に丁寧な保育士・幼稚園教員養成の指導が出来るようになる。

記述統計量<sup>a</sup>

		度数	5	4	3	2	1	平均値	標準偏差
I 学習態度の自己評価	1. 授業の概要・目的、成績評価方法等の正しい理解	1985	1203	522	228	22	10	4.45	.778
	2. 授業を乱す行為をしない	1985	1296	504	162	21	2	4.55	.698
	3. 発展的な学習や新しい知識への興味	1983	1193	541	208	32	9	4.45	.780
	4. 積極的な参加	1985	1185	553	218	25	4	4.46	.753
	5. 計画的な学習への取り組み	1984	973	622	321	55	13	4.25	.871
	6. 地域及び国際社会の事情に、より関心を持つ	1982	938	564	382	72	26	4.17	.949
	7. 自主的な予習・復習または準備・フィードバック	1984	803	594	477	86	24	4.04	.962
	8. 遅刻はない	1985	1556	235	127	45	22	4.64	.792
	9. 欠席回数の把握	1742	-	-	-	306	1436	.47	.381
II 学習環境の評価	10. 授業中の質問する機会や工夫	1983	1225	503	207	35	13	4.46	.801
	11. 適切な授業の開始・終了時間	1983	1403	411	129	28	12	4.60	.727
	12. メリハリのある授業の進め方	1983	1343	386	183	54	17	4.50	.837
	13. 理解や興味を引き出す工夫	1983	1264	414	222	57	26	4.43	.894
	14. 教員としての相応しい発言や態度	1983	1438	351	145	40	9	4.60	.750
	15. 学習環境、受講生のマナーの維持	1981	1299	437	200	32	13	4.50	.792
	16. 教科書や黒板、パソコン等の有効利用	1983	1290	426	214	39	14	4.48	.818
	17. 適切な授業の進度	1982	1352	402	174	36	18	4.53	.802
	18. 学んだという達成感	1981	1337	398	173	48	25	4.50	.850

※問9は、1=「はい」の回答数、2=「いいえ」の回答数、平均値=欠席回数の平均値を示す。

## 4 自由記述による評価

2012年度の授業評価アンケートは、それまでの質問項目の変更に加え、自由記述部分の問い方についても、その方法と文言を修正した。これまでの問い方は、1) この授業の良い点、2) この授業に改善してほしい点、3) この科目や担当者の授業法について、感想・意見・印象に残ったこと、4) 学長へ（聞いてほしいこと）への回答を求めるものであったが、今年度より「改善のための提言：この授業を振り返り、学習環境（担当教員も含む）改善のための提言をしてください。」と変更された。

#### 4.1 総合教育系の授業について

学生の回答を概観すると、これまで実施されてきた上記 1)～4) への回答が渾然一体となったような記述が多く、実際には学習環境改善への提言は少なかった。

総合教育系の全体的な傾向として、以下のようなことが認められた。

- 1) 実技・演習系の授業においては、技能習得への達成感、授業の楽しさが多く記述されていた。
- 2) 授業の展開方法が、参加・体験型であったり、視覚的資料（ビデオや DVD、パワーポイント資料、その他画像や動画）などの使用により、楽しく学べると感じる学生が多い。
- 3) グループでの課題への取り組みなどが、学びの共有や内容理解へ効果的であるとの感想が多い。
- 4) 学生から評価が良くない記述としては、内容が理解できない、教科書や資料を読むだけ、進度が速い、学生との授業やテストに関するインフォームドコンセントが為されていない、言葉遣いや態度が悪い、などが認められた。

#### 4.2 英語科の授業について

おおむね「わかりやすくて楽しかった」「学ぶことが多かった」などのコメントが並ぶが、ごく少数だが、「学生のモチベーションを下げる授業」「急におこる理由がわからない」など、かなり批判的なコメントがあった。記述内容をよく検証し問題点を明確にして改善に努める必要性がある。

#### 4.3 保育科の授業について

学科の授業は他短期大学でも同様であろうが、講義・演習・実習の三つの区分に分けられ、それぞれの担当教員が特質をふまえて教育を行っているが、毎年、学科特有の演習系授業に関しては、肯定的な意見が多く見受けられている。具体的な指導や実習における責任実習を見据えた指導を担当教員が心がけている故であろうと思われる。また、講義や実習に関する教員の言動や指導法については、概ね良好である。

#### おわりに

全体的には、学生要因の Q1～Q8 までの平均値は 1 項目を除いて 4.0 を超えているので、学生たちはほぼ真面目に勉学に取り組んでいると考えられる。教員要因の Q10～Q18 を平均すると 4.46 となり、総じて、教員は授業を工夫し、わかりやすく教えていると評価されているようだ。

ごくまれに、自由記述の中で強く非難されているコメントがあり、そのような教員は学生のコメントを真摯に受け止め、授業態度の改善に努めるべきである。

## 学生による授業評価について

調査期間：前期7月／後期1月

調査対象：全クラス

### 学生の皆さんへ

この調査は、本学の教育活動を充実・改善するための基礎資料を得るために、全クラスについて実施されるものです。なお、この調査データはコンピュータにより統計処理され、担当教員に個々の生データを閲覧させることはなく、「成績」に影響を及ぼすようなこともありません。また、プライバシー保護については十分留意しますので、率直かつ真摯な評価をお願いします。(学籍番号の記入欄は、学生が自分の意見に責任をもって記述してもらうために設けています。ただし、個人を特定するものではありません。)

沖縄キリスト教短期大学FD委員会委員長

沖縄キリスト教短期大学学長

この授業評価アンケートは、大きく3つの項目に分かれています。

#### 「Ⅰ. 学習態度の自己評価」について

ここでは、学生の皆さんに、この授業で自分の学習態度はどのようなものであったかを自己評価していただきます。この項目の目的は、学生の皆さんが「自律学習者」(自分の学習を自分の立てた規律や計画に従って積極的に行う者)として、それぞれの授業にどう向き合ったかを振り返っていただくとともに、その自己評価を今後の学習に活かしていただくことです。

#### 「Ⅱ. 学習環境の評価」について

学生の皆さんが授業を受ける際に、適切な学習環境が提供されていたかどうかをお聞きます。本短期大学と担当教員は皆さんからの評価を参考にし、より良い学習環境の提供に努めたいと思っています。

#### 「Ⅲ. 改善のための提言」について

本短期大学と担当教員は、より良い学習環境の提供のため、改善するべき点があればそれを明らかにしたいと思っています。受講生としての立場から気付いたことを、自由に記述してください。

※記入終了後、指名された学生が回収します。 提出先：教務課

科目名	クラス名	性別	男	女
所属学科	1. 英語科    2. 保育科    3. 科目等履修生	学年	1年	2年
学籍番号	※差し支えなければ学籍番号を記入してください。			

(裏のページへ進んでください⇒)

沖縄キリスト教短期大学

< I 及びIIの評価方法 >

・設問1～8、10～18は、評価欄のあてはまる数字（1～5）に○をつけてください。

評価基準：5 とても良く当てはまる 4 当てはまる 3 どちらともいえない 2 あまり当てはまらない 1 全く当てはまらない

・設問9は、「はい」の場合、該当する数字を（ ）内に記入してください。

I. 学習態度の自己評価

	評 価 欄				
1. 初回のオリエンテーションを聞き、授業の概要や目的、成績評価の方法などについて正しく理解していた。	5	4	3	2	1
2. 私語や携帯電話の使用など、授業を乱す行為をしなかった。	5	4	3	2	1
3. この授業をきっかけに、発展的な学習や新しい知識に興味を湧いた。	5	4	3	2	1
4. この授業に、積極的に参加した。	5	4	3	2	1
5. 授業時間以外にも、授業の準備や課題を行うなど、計画的に学習に取り組んだ。	5	4	3	2	1
6. この授業を通して、地域及び国際社会の事情に、より関心を持つようになった。	5	4	3	2	1
7. この授業の予習・復習または準備・フィードバックを自主的に行った。	5	4	3	2	1
8. この授業での遅刻はなかった。	5	4	3	2	1
9. この授業での欠席回数を把握している。	はい（ ）回	いいえ			

II 学習環境の評価

	評 価 欄				
10. 授業中、分からないことや理解できなかったことを質問する機会や工夫があった。	5	4	3	2	1
11. 授業の開始・終了時間は適切であった。	5	4	3	2	1
12. 授業の進め方にメリハリ（声の大小、説明内容等）があった。	5	4	3	2	1
13. 理解や興味を引き出すよう工夫されていた。	5	4	3	2	1
14. 教員として相応しい発言や態度であった。	5	4	3	2	1
15. 受講するための十分な学習環境、受講生のマナーが保たれていた。	5	4	3	2	1
16. 教科書や配布資料、その他教材、黒板やパソコン等が有効に使われていた。	5	4	3	2	1
17. 授業の進度は、適切であった。	5	4	3	2	1
18. 学んだという達成感が得られた。	5	4	3	2	1

III 改善のための提言

この授業を振り返り、学習環境（担当教員も含む）の良かった点・改善点を提言してください。（自由記述）

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

ご協力ありがとうございました。